

平成30年度市町村提案事業採択状況

No	市町村名	事業名	事業主体	対象事業費 (千円)	補助要望額 (千円)	事業の概要	事業評価
1	柴田町	ナイトツーリズム受入環境整備事業	柴田町	5,001	2,500	<p>目的</p> <p>「花のまち柴田」の観光資源として花の観賞イベントを通年にわたり実施しているが、その鑑賞機会は日中に限られており、PR及び交流人口を増加させる機会を逸している。「花のまち柴田」の夜間鑑賞・ナイトツーリズムを推進するべく、これまで来園者が観る機会のなかった夜間の花々をPRするとともに、観光資源としての価値を高め、集客と収益の増加を目指す。</p> <p>内容</p> <p>「花のまち柴田」の夜間鑑賞を推進するべく、紫陽花・彼岸花・梅花の夜間観賞スポット作りに加え、これらの開花がない冬季にも花を表現したカラーライトによるライトアップを行う。また、インスタグラム等のSNSを使ったナイトツーリズムフォトコンテンツキャンペーンを実施し夜間の花々をPRする。さらに、観光資源の夜間鑑賞に係るプロモーションが出来る人材を育成するよう、研修講座の開催及び先進事例の見学研修を実施する。 なお、キャンペーンの企画・運営を住民主体の「花のまち柴田」イベント開催実行委員会によって行う。</p>	<p>地域ブランド戦略として「花のまち柴田」を掲げている柴田町にとって、本事業は地域の特性に応じた事業といえる。また、夜間の観光に着目したという点で観賞スポットの整備やナイトフォトコンテストキャンペーンなどの各取組には、市町村独自の創意・工夫がみられる事業である。さらに、県が策定している第3期みやぎ観光戦略プランにおける、継続的な取組の方向性である「観光資源の魅力の向上と観光客受入態勢の整備拡充」に合致しており、県の政策との整合性も図られている。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。</p>
2	白石市	子育て支援・多世代交流複合施設交流環境整備事業	白石市	12,500	6,250	<p>目的</p> <p>白石市では、若い世代を中心とした定住支援や子育て支援の強化を図り、さらに多世代の人々が交流・体験することにより魅力ある地域づくりを推進するため、「白石市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げている「子育て支援・多世代交流複合施設」の整備を進めている。 「子育て支援・多世代交流複合施設」は子どもの屋内遊び場を通じて多世代の交流を生み出すことをコンセプトに掲げており、本施設で各種交流事業を展開し、来訪者が同一拠点内に整備予定の農産物等販売施設、地元食材活用レストラン等農商工施設を循環することにより、子育て支援による多世代交流を通じた賑わいと活力にあふれた地域づくりを目指す。 さらに、読み聞かせや食農教育、各種活動発表等による多世代交流の促進や、他の子育て支援施策により「子育てしやすいまち白石」が定着し都市としての魅力を高めることで、定住促進強化につなげることも目的としている。</p> <p>内容</p> <p>「子育て支援・多世代交流複合施設」における各種交流事業として以下の事業を実施する。 ・地元食材の大切さを祖父母、親、子の世代間で共有することなどを目的とした料理教室の開催 ・子どもの豊かな言葉を育むために、人形劇、紙芝居、パネルシアターなどの児童文化財の発表・鑑賞 ・日常生活で家族や地域などによる絵本の読み聞かせが盛んに行われ、子どもの創造力を醸成するための絵本の読み聞かせ教室の開催 ・子どもの体力向上促進を図るため、本市の他、宮城インバウンドDMOを形成する県南3市9町などの他市町村を含めた園外・校外活動において、インストラクターによる施設内遊具を活用した遊び方の指導 ・子育てレスパイトケアにおける子育ての悩みごと相談事業 ・しろいし赤ちゃんの駅モデル施設としてのPR事業</p>	<p>農産物等販売施設や地元食材活用レストラン等農商工施設と複合した子育て支援施設を活用した交流事業の実施は、子育て支援を通じて多世代また地域間の交流を促進するという点で、県内では他に例の少ない先進的・モデル的事业といえる。また、県が策定している「みやぎ子ども・子育て幸福計画（第1期）」の基本理念では、安心して子どもを産み育てることが出来る地域社会の実現を目指しており、県の政策との整合性も図られている。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。</p>
3	南三陸町	南三陸ラムサール条約登録推進事業	南三陸町	4,048	2,024	<p>目的</p> <p>平成30年10月にドバイで開催される締約国会議において、南三陸町の志津川湾が、国内初の「海藻藻場」でのラムサール条約湿地として登録予定である。ラムサール条約の目的は、自然環境を保全するだけでなく、交流・学習や賢い利用（ワイズユース）に活かすこととされている。そこで、本事業は、地域内での理解とラムサール条約湿地を活用した今後の主体的取組みの促進、そして、町の自然豊かな環境と震災後の復興の様子を広く国内外へPRすることを目的とする。</p> <p>内容</p> <p>本事業は、志津川湾の豊かな自然環境と復興のPR、町内外の子ども達の交流・学習を通じた人材育成・交流人口の増加に資する事業を実施するものであり、具体的な実施内容は以下のとおり。 ・ドバイで開催される締約国会議で上映する南三陸町と志津川湾を世界へPRするための映像を作成する。 ・全国のラムサール条約登録地の子どもたちを南三陸町へ招待し、湿地をテーマにした学習・交流活動を行うKODOMOラムサールを開催する。 ・ラムサールセンター（RCJ）や日本国際湿地連合（WIJ）等の関係機関と協力しKODOMOラムサールを柱としたシンポジウムを行う。</p>	<p>南三陸町の震災復興計画では「自然と共生するまちづくり」を目標に掲げており、ラムサール条約湿地に関する本事業も地域の特性に応じた事業といえる。また、「海藻藻場」でのラムサール条約湿地登録は国内初であり、それを活用し豊かな自然環境や東日本大震災からの復興のPR、また、子ども達への環境教育を行う本事業は先進的でありモデル的な事業といえる。さらに、県が策定している宮城の将来ビジョンにおける豊かな自然環境、生活環境の保全において、県として行う取組の方向にある「国定公園やラムサール条約湿地など、宮城を彩る豊かな自然環境の保全・再生の推進」に合致しており、県の政策との整合性も図られている。 以上のことから、本事業は市町村提案事業の主旨に合致した事業と認められる。</p>
計				21,549	10,774		